

地域との連携で進める歯・口の健康づくり

福島区学校保健協議会

はじめに

福島区は大阪キタの繁華街の西側に隣接し、飲食店街や大手企業などのビルが立ち並ぶ町である一方、中央卸売市場があるため昔ながらの商店街も盛況で、古い町並みも混在する地域である。

近年、タワーマンションや都心型マンションが増加したことにより、一時減少していた人口も年々増加傾向となり、児童生徒数も幼小中15校園で現在は4000人余りの在籍だが、これから増加することが予想されている。

児童生徒数が増加する状況の中で、子どもたちの健康や学力向上の基礎になるのは、何より生活習慣の安定であると考え「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業」を受けることとなった。

1. 研究の概要

【研究のテーマ】

「地域との連携で進める歯・口の健康づくり」

【設定の理由】

- ・本区小学校では学校保健委員会を全校で実施していること。
- ・過去に全日本学校歯科保健優良校表彰を受けた学校が5校あり、現在も歯科保健活動の実践を継続していること。
- ・区内には大手の製薬会社や石けん・

歯みがきなどの衛生用品関連の会社など保健衛生関連企業が3社あり、それらの企業からの研修も受けやすい環境にあること。

このような条件のもとで、福島区学校保健協議会の組織を中心に同校種間の連携、幼小中学校の縦の連携や、学校歯科医との連携、栄養教職員との連携、地域や保護者との連携などにより、子どもたちの成長を地域みんなで支えながら協力して子どもの健康づくりを行うことができると思った。

【目指す子ども像】

「一生おいしく味わって食べることができる子ども」

【設定の理由】

おいしいということは単に食物の味だけでなく、食事の雰囲気・盛り付け・楽しい語らいなど視覚・聴覚・嗅覚・味覚など様々な心地よい刺激によってもたらされるものであり、心身に計り知れないよい影響を及ぼすものである。そして「おいしく食べる」ためには、口の機能をできるだけ良い状態に保つことが必要であり、「味わって食べる」にはよくかんで口の機能を十分に使うことが必要である。

しかし、急激な生活環境の変化と食生活の多様化は食行動に様々な変化をもたらしている。このような現状のもとで

将来を担う子どもたちに、歯や口の健康について食育を含めた健康教育の立場から区内で協力して指導することは、区全体の子どもたちのむし歯や歯周病の予防だけでなく生活習慣病の予防にもつながり、生涯、健康で豊かな生活を送ることにつながると考えた。

2. 研究の組織

福島区学校保健協議会を中心に、学校医部会・学校歯科医部会・学校眼科医部会・学校耳鼻科医部会・学校薬剤師部会の協力と、学校長・保健主事・保健主任・養護教諭・栄養教職員・PTAが力を合わせて取り組んでいる。

3. 研究実践

【実態把握】

- ・各校の実践状況を交流し合い、保健指導内容の共有化を進める。
- ・定期健康診断のまとめから本区の実態と問題点を探る。
- ・アンケート調査により、実態と意識の差がどこにあるのか見極める。

【実践の内容】

A：学校間の連携

- ・同校種間の連携
- ・幼稚園と小学校の連携
- ・小学校と中学校の連携
- ・中学校と幼稚園の連携

B：学校歯科医との連携

- ・歯科保健講話の実践
- ・学校保健委員会への協力
- ・歯科医院への見学

C：栄養教職員との連携

- ・栄養指導と保健指導の連携

- ・学校保健委員会への協力

D：地域との連携

- ・地域企業協力による研修
- ・保健協議会総会、大会での地域への発信
- ・福島区健康展への参加
- ・お年よりとのふれあい
- ・保護者との協力

4. 指導内容

《おいしく食べるためのてだて》

- ・口の食べる機能をできるだけ良い状態に保つことが必要である。

*むし歯・歯周疾患の早期治療を勧める。

*毎日の歯みがきの大切さを指導する。

*みがき残しのないブラッシングを指導する。

《味わって食べるためのてだて》

- ・よくかんで食べる習慣をつけることが必要である。

*食べる時、口を閉じてかむよう指導する。

*食事中に水分をひかえることで、流し食ではなく、しっかりかんで食べることができるように指導する。

*食事のマナーをきちんと守ることが食べる機能を十分に引き出すということを指導する。

上記のことを様々な連携の機会をとらえて指導する。

